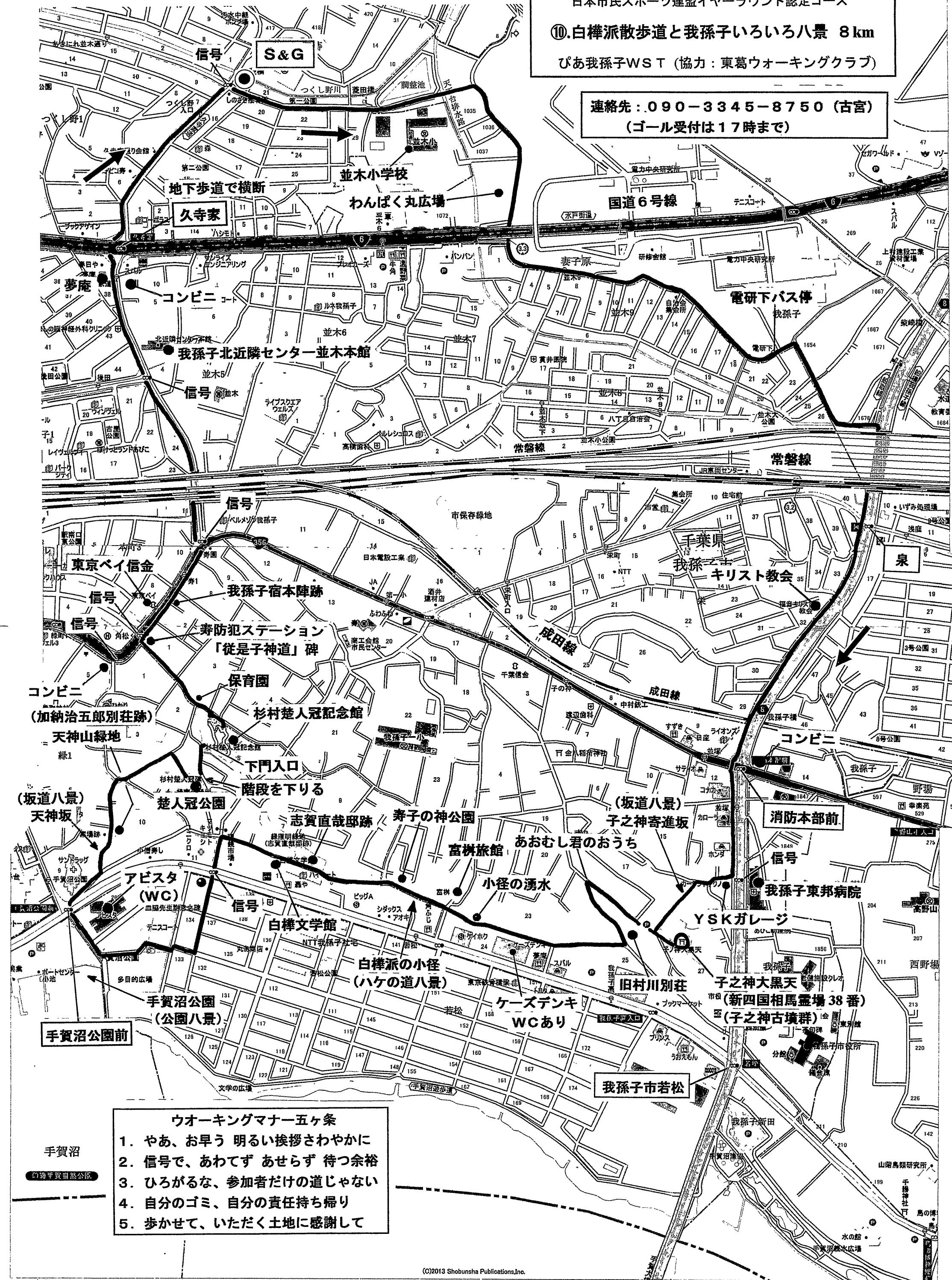


連絡先：090-3345-8750（古宮）
（ゴール受付は17時まで）



ぴあ我孫子WS T

No.10「白樺派散歩道と我孫子いろいろ八景」 8km

- ①. しのぎ接骨院のある交差点を左へと進みます
並木小学校裏門前を通り、先の丁字路で右折します
- ②. わんぱく丸広場の先で国道6号線の下を進みます
- ③. 「電研下バス停」の先で右折し、道なりに進みます
- ④. 消防本部前交差点を過ぎ、我孫子東邦病院前の信号で右折
緩い下り坂の先、左に入る細い路地の先に「子之神寄進坂」があり、足元の悪い階段を登った先にある駐車場を左に曲がった処に子之神大黒天があります
- ⑤. 「あおむし君のおうち」から少し急な坂道を下り、突き当りを右折します この道が「ハケの道・白樺派の小径」です
- ⑥. 左側にドラッグストアと車検のコバックが見えた処で左折
押しボタン信号の先・右側にある松屋をご確認ください
- ⑦. 住宅街を進むと、右側に手賀沼公園が見えます
- ⑧. 手賀沼公園前交差点を渡り、左側の細い車道へと進みます
左側に「天神坂」(標識あり)があり、これを登ります
- ⑨. 天神山緑地の先、突き当りを右に(下り坂ではない方へ)
その先に楚人冠公園への案内標識があります

- ⑩. 楚人冠公園の中ほど左側にある階段を下ります
下りた先を左方向に進むと、杉村楚人冠記念館へと続く庭園に入れる「下門入口」から中へと入ってください
- ⑪. 杉村楚人冠記念館(正面)を出て左へ進みます
- ⑫. 我孫子は千住宿から四番目の宿場町となります
説明の記された標柱が在りますので、是非お立寄りください
- ⑬. 常磐線の下越しヶ所となりますが、歩道がありません
歩行者用に緑のラインが引かれていますので、その上を歩いてください 複数人で歩く場合は一列でお願いします
- ⑭. 手前の夢庵を目印に、左側歩行となります
国道6号線・久寺家交差点にある地下歩道をご利用ください
- ⑮. 地下歩道の先は緩やかな下り坂になります
坂下の信号脇に「黄色看板」が見えた処がWS Tです

お疲れ様でした

またのお出掛けを心よりお待ちしております

ぴあ我孫子WS Tは、年末・年始を除き開設しますが、CWAの関連行事や東葛行事の開催日などには、お休みをさせていただきます当初の予定が変わる場合もありますので、事前に開設確認のご連絡がいただくと助かります

子ノ神大黒天・延寿院

行基菩薩が諸国国分寺巡錫の折りに、下総国分寺で薬師如来と十二神将及び大黒天を刻んで安置した。ところが、国分寺が度々火災に見舞われたため、その尊像を遷すことにして宥啓阿闍梨自ら適地を探し求めていたところ、前方に手賀沼を見下ろし柊の霊木が繁茂する当地を見出し、康保元年(964)甲子の年正月8日子ノ日に一字を建立し子ノ神大黒天を安置したという

延寿院は、正式名は白花山延寿院という真言宗豊山派のお寺で古くから子ノ神大黒天の別当院であったもと我孫子宿の街道沿い(現在の本町3-6付近)にあったが、大正7年に現在地に移建された 本堂は昭和45年に焼失、翌年にコンクリート造りで再建されました 堂内には本尊不動明王を安置する他に厨子入木造彩色の子将神像及び厨子入りのえびす、大黒天像が祀られている

伝説によると源頼朝が脚氣にかかった時、夢に白ネズミに乗った翁が現れ、柊で足を祓うとのお告げがあり、その通りにすると治ったといわれています 以後、子ノ神大黒天は足腰の病に効験があるとの信仰がひろまり、多くの参詣者で賑わうようになったという

金のわらじは、健全な永い人生の歩みを表し、たとえどんな茨の道でも擦り切れることもなく、まして小判の形を踏み残すという云われがあり、多くの人が治癒を願ってかけたものである 10月の第4日曜日に、境内で火渡りの行事がおこなわれる

旧村川別荘

今からおよそ100年前、我孫子にはまだ電気が通るか通らないかの頃です 手賀沼を愛した一人の帝大教授で西洋古代史学者・村川堅固が、この水辺の環境を気に入って大正6年に沼を一望できる丘の中腹に別荘を設けました

昭和になって息子の堅太郎に引き継がれた別荘は、平成の時代を迎えたとき取り壊される運命にありましたが、別荘の貴重な空間を大切に思った遺族や市民の方々が立ち上がり、行政も応え別荘も守られ、市の指定文化財として現在に至っております 別荘は我孫子市寿二丁目、JR我孫子駅南口から徒歩15分の距離にあり子の神道という江戸時代以来の古道に面しています 子の神道は、子ノ神大黒天への参道であり、別荘の隣地に延寿院があります

別荘の敷地面積は約3千㎡、沼への傾斜地を切り開いた起伏にとんだ邸内となっています

志賀直哉別荘地跡

直哉は、大正4年から12年まで我孫子で暮らしていました 我孫子では「城の崎にて」、「和解」、「暗夜行路」などの小説が生まれています この書齋は直哉の設計により大正10年頃に建て、市の指定文化財となっています

杉村楚人冠

本名広太郎は、明治末期から昭和前期の東京朝日新聞社で活躍したジャーナリスト

手賀沼の干拓に反対し、景観保護活動に取り組むなど観光地としての我孫子市発展に尽力しました